

第4回 聖書に親しむ会

テーマ 「イエスの教えとたとえ」
今回のテーマ「人生は迷いがつきもの」

日時 2023年2月28日(火) 10:30~11:30

場所 ロビニアホール

担当 学園宗教主任 鳴坂明人

1. 祈祷 鳴坂

聖書朗読 ルカによる福音書 15章 1~7節 (新約 p138)

2. コメント

- ・イエスは当時の日常的出来事を素材に、聴衆の状況に応じて即興でたとえを語り、神の国(天国、神の支配)の正義・真理・愛を人々に説いた。

(1) イエスの教えの中心

- 1) イエスの「神」と「人間」との関係(神の愛の豊かさと威力)の問いかけ
- 2) イエスの「神の国」理解(この世の価値の本質を問い直す)

(2) イエスのたとえの特徴

1) たとえの主題

- ・イエスのたとえの主題は一貫して「神の国」(神の支配)のことを地上の話で解説するものである。

2) イエスのたとえの特徴

- ・神の国と地上の生活とは断絶し、相互に異質なもの
- ・人間を超えた神の支配を表わすために非合理的、反自然的、不可解な展開と結論(非合理的) たとえは聞き手に不合理性を残したまま、考えさせるもの。
(反自然的) 非常識な側面があり、理想的な解釈に陥りやすい
(不可解) 不明な点、聞き手に理解させない部分を残すもの(理解できないものであることを理解すること)
- ・たとえを通して語るイエスの教えは倫理的教訓が目的ではなく、福音(喜び)、無限抱擁的な神の愛の豊かさ(不自然さ、あり得ないこと)である。
- ・豊かな日常性

自然に対する豊かな感覚

人間についての豊かな理解(ぶどう園の労働者:働く者の心理)

(3) 「見失った羊」のたとえ(ルカ 15:1~7、マタイ 18:12~14)

- 1) 当時のユダヤ社会の羊飼いの状況(住所不定、差別、軽蔑の職業、罪人扱い)
- 2) 羊飼いは神、羊は人間に対応する存在(親と子の関係)
- 3) このたとえの粗筋は単純明快であるが、その主題は何か(多様な解釈が可能)
- 4) 神の前に悔い改めること
 - ・聖書の「悔い改め」は神と向き合い、過去を整理し、新たな人間として生きること

- 5) たとえの主役は羊飼、彼の異常な喜び方と神の愛
- ・一人一人は苦悩しながら生きているが、想定外の神の愛の中に生かされている存在
 - ・親子、家族関係の複雑さと喜び
 - ・個人の孤立と孤独（人間関係の希薄化）
 - ・多様社会（多様な文化、宗教、生活習慣、価値観を持つ者との良好な関係）
- (4) むすび
- ・イエスのたとえは人間も自然も命あるものはすべて神によって救われ、最大限に愛される尊い存在であること、また神が支配する国の現実感と驚きを伝えるものである。
 - ・社会の現実には1匹の羊を犠牲とする事態が多すぎるのではないか（ジェンダー、差別、いじめ、高齢者対象の犯罪、個人の死を美化する戦争の大義等）

鳴坂担当のテーマ(2023年4月以降)

イエスのたとえを中心に学びます

	テ ー マ	聖 書
1	種まきと結実	マルコ 4:1～9
2	麦と毒麦	マタイ13:24～30
3	二人の息子の父	ルカ 15:11～32
4	おかしい賃金支払い	マタイ 20:1～15
5	あるサマリア人	ルカ 10:25～37